小中一貫教育だより
学校教育課・教育センター版
令和８年２月４日　　No.52
（小中一貫教育推進だよりから 通算No.122）
十日町市教育委員会学校教育課

左：拡大中学校区小中交流会（中条中学校），右：水沢中学校区授業公開（水沢中学校）
写真の説明は６，７ページ

巻頭言　『つながりいっぱい』

学校教育課長　渡邉　正文

「つながり」というと，皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？　家族とのつながり，仲間とのつながり…，いろいろなつながりがあると思います。私自身，「十日町市とのつながり」を振り返ってみると，中学生の頃までにさかのぼります。叔父が旧電電公社（今のＮＴＴ）で十日町市勤務でしたので，叔父を訪ねてこの地に来たのが最初です。当時はほくほく線も工事中で，その高架橋も途中でプツッと切れており，また，駅近くのスーパーも今とは違う名前でした。クロステンもオープンして間もない頃だったような気がします。初めて十日町のへぎ蕎麦を食べ，「こんなにうまい蕎麦があるのか？」と感動したことを覚えています。そして時を経て，今現在，この十日町市に勤務していること，不思議なご縁を感じています。

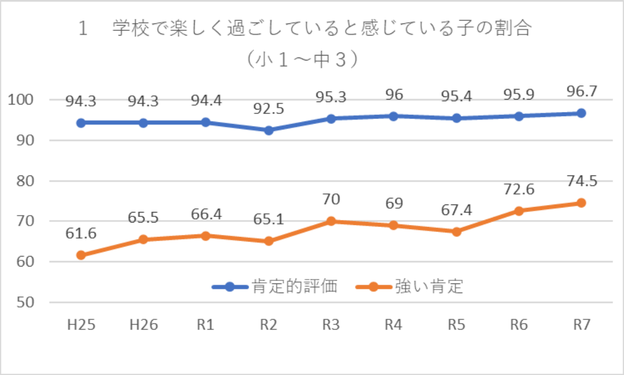
さて，現行の十日町市学校教育の重点も令和７年度までの計画になっており，令和８年度からの新しい学校教育の重点も，現在策定の準備を進めています。平成 26 年から完全実施となった十日町市の目指す小中一貫教育も，「学力向上，不登校・いじめの減少，特別支援教育の充実」という３つの教育課題を解決するために，「つながりいっぱい」というスローガンの下，小中の円滑な接続を目指し，９年間を見通した教育活動を展開してきました。今後，「つながり」ということを考えれば，小中のつながりだけでなく，幼保小のつながり，高校等とのつながり，家庭とのつながり，地域とのつなが

り，学校だけでなく，他の団体や市の文教施設等とのつながりなど，児童生徒にかかわる全ての人やもののつながりを一層充実させていくことが求められています。みんなが「つながる」中で，児童生徒の学ぶ意欲を高め，ふるさと十日町市全体を学びのフィールドにし，魅力ある学びが展開されていくこと。市教育委員会としても今後も市内の学校に対し，強力にバックアップをしていきます。

小中一貫教育

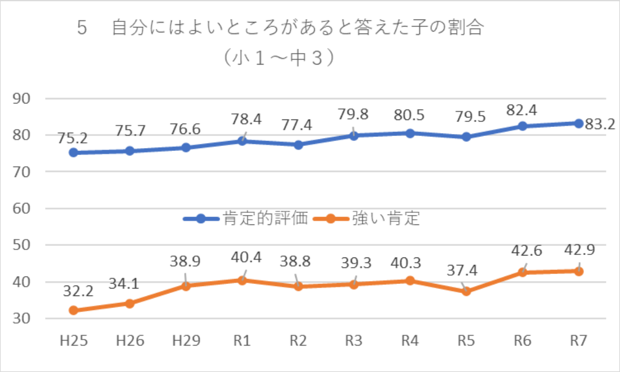
■　小中一貫教育　取組評価アンケートから　考えること

令和７年度の小中一貫教育の取組評価結果がまとまりました。各校，各中学校校区での日頃の取組の成果がよく表れている結果が随所に見られ，嬉しく思います。



「居心地のよい学級づくりを基盤とした自己有用感の向上」を小中一貫教育の共通取組事項として努力していただいていることがよく表れています。

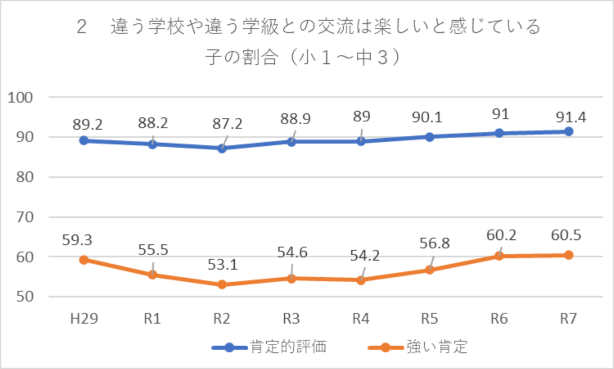
グラフ１「学校で楽しく過ごしていると感じている子どもの割合」の肯定的評価が令和６年度の過去最高値を今年度さらに更新しています。その中でも強い肯定が全児童・生徒の約４分の３に当たる割合で伸びています。



また，グラフ５「自分にはよいところがあると答えた子ども」の割合が肯定的評価，強い肯定ともに過去最高値を更新しています。

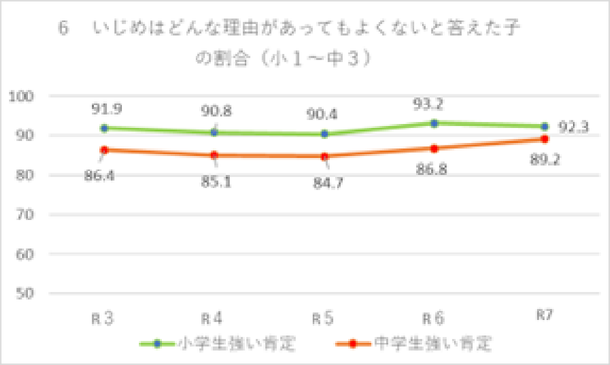
小小，小中や特別支援学校との交流が子どもの多様性の包摂などの社会性の向上につながっていると考えます。

グラフ２「違う学校や違う学級との交流を楽しいと感じる子ども」の割合が過去最



高値を更新しています。交流場面の工夫や特別支援学校との交流が増えたことなどが理由として考えられます。

グラフ６「いじめはどんな理由があってもよくないと答えた子ども」の中学生の強い肯定が過去最高値となり，90％に近づいています。いじめ見逃しゼロスクール集会の内容が充実していることや日常の人権教育が生きていることが理由として考えられます。

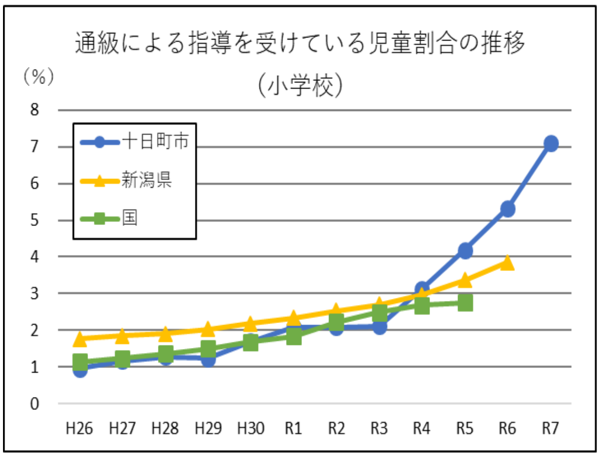


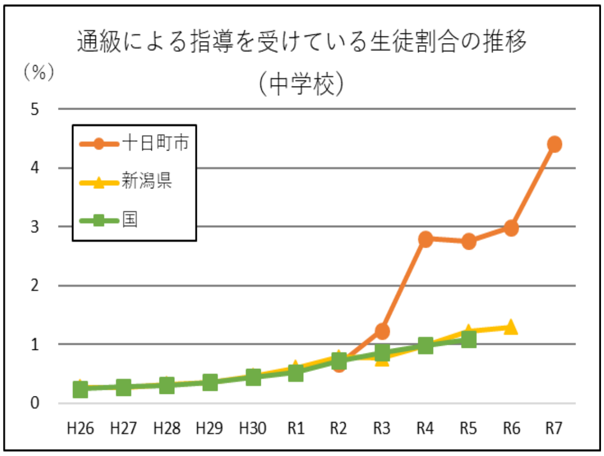
教育相談班より

■通級による指導の効果を通常の学級に！

近年，特別支援教育を受けている児童生徒数は，全国及び県共に増加しており，特に通級指導を受ける児童生徒数は大幅に増加しています。よって，通級指導教室の設置数も増加しており（下記グラフ参照），十日町市においても同様の傾向があり，令和８年４月より，千手小学校に「言語障害通級指導教室」，川西中学校に「発達障害通級指導教室」を新設することになりました。

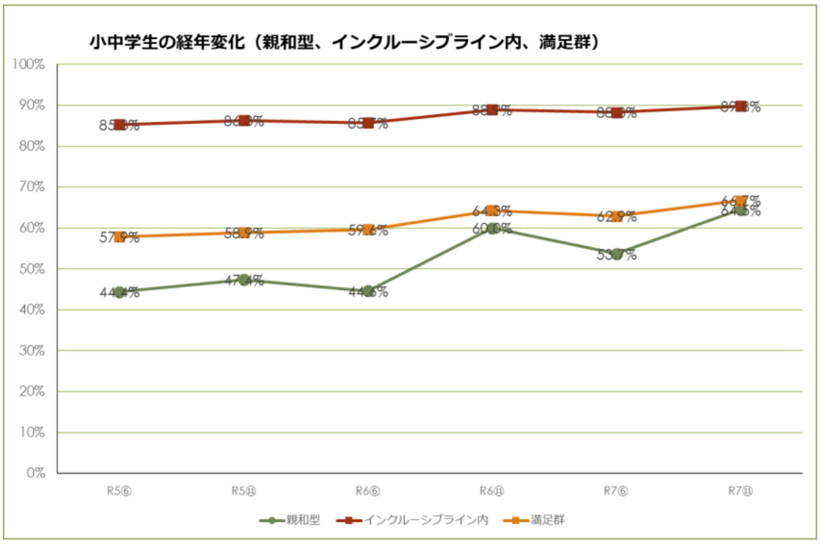
通級による指導を受けている児童生徒にとって，通級指導教室での指導はとても重要です。通級での学びを日常の学校生活に，より生かしていくためには，在籍する通常の学級担任等と通級指導の担当教員とが，適宜指導の様子や学習の進捗状況等について情報交換を行うことが大切です。両者が対象児童生徒の情報を共有することによりに，通級による指導の効果が通常の学級においても波及することへつながります。





学習指導班より　「居心地のよい学級づくり」の成果について

居心地のよい学級づくりを主要事業として位置付けた取組の４年目が終わります。本事業では，学力の定着と向上，不登校児童生徒の発生率の低下を目的としてきました。不登校児童生徒の発生率の減少に続き，令和７年度は学力でも数値的な向上が見られました。そこで，令和５年度より全学年で実施するようになった WEBQU で分かる数値の変化についてお知らせします。



右のグラフは，WEBQU から分かる３つの指標の経年変化です。この割合から成果を捉えていきます。

１つ目は親和型の学級の割合で，44.4％から 64.5％まで増えました。

２つ目は，インクルーシブライン内の児童生徒の割合で 85.3％から 89.8％に増えました。

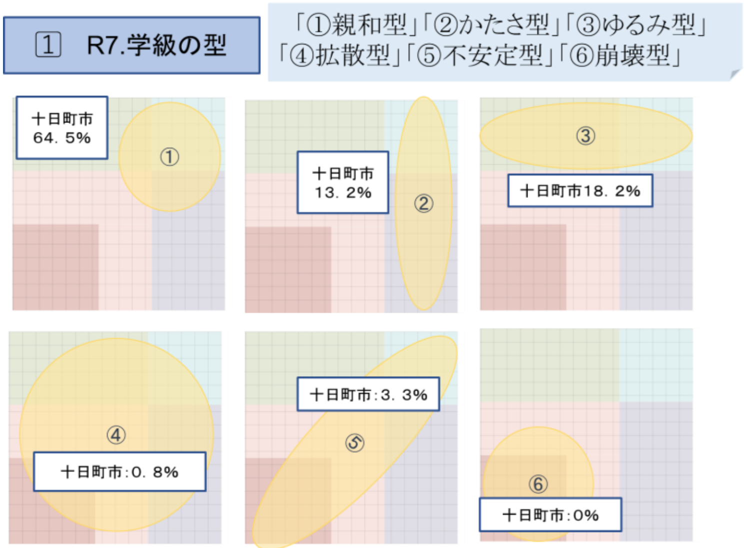
３つ目は，満足群に属する児童生徒の割合で，57.9％から 66.7 に増えました。

令和５年度の段階では，インクルーシブライン内の児童生徒の割合や満足群に属する児童生徒の割合に比べ，親和型の学級が少なかったです。居心地のよい学級づくりを推進することで，親和型の学級の割合が 20％増加するとともに，インクルーシブライン内の児童生徒の割合や満足群に属する児童生徒の割合も増えました。とてもよい傾向にあります。

そこで，それぞれの数値が何を表すものなのか，もう少し詳しく見ていきます。

<親和型とは>

WEBQU では，生活指導面で安定しているか否かを示す安定度と，学習指導面で活性化しているか否かを示す活性度から，学級全体の状態である「学級の型」が示されます。示される型は，右図のような６通りです。安定度と活性度ともに充実している学級が親和型の学級と判定されます。十日町市は，居心地のよい学級づくりにより親和型の学級が 64.5％と多いことが分かります。



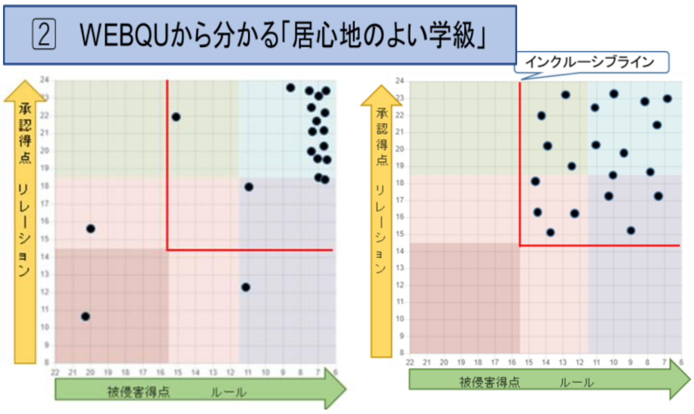
安定度　学級が生活指導面で安定しているとは，学級集団の規律としての「ルール」や親和的な人間関係である「リレーション」の確立が前提となり，集団に所属するメンバーがチームとして各自の役割を理解し行動できている度合いを示します。

活性度　学習指導面で活性化しているとは，個人の考えも，メンバー間の相互作用も大事にされ，自由な発想を積極的に全体の考えとして取り入れ向上しようとする度合い，つまりメンバー同士の建設的な相互作用の度合いが高いことを示しています。

＜インクルーシブライン内とは＞

インクルーシブラインとは，プロット図に赤線で示したラインです。このライン内に入っている児童生徒を 100%にすることを目標に取り組んできました。目標には届きませんが，90%近い数値まで向上しました。

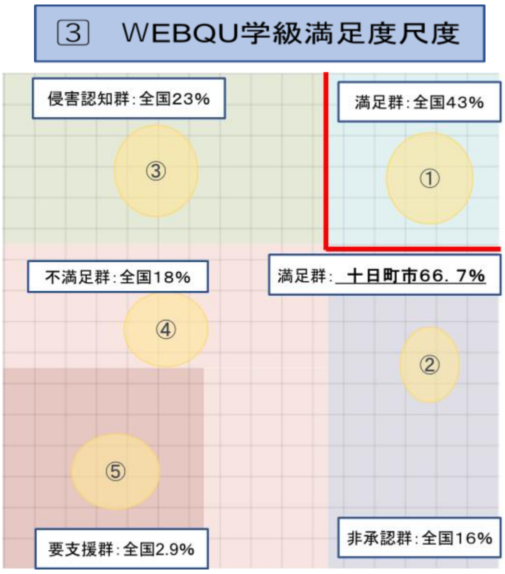
表示されている２つの図は，どちらも親和型の判定なのですが，右のように適度なちらばりがあり，このライン内に全員が入ることを目標としています。



＜満足群とは＞

満足群とは，WEBQU アンケートの結果，プロット図の赤線で囲まれた部分のことです。

プロット図では 右上 に位置し，学級生活が充実しており，心理的に安定した子どもたちです。学級集団において子どもたちの良好な人間関係と教師との関係が築かれている状態を指します。この状態では，児童生徒が集団活動や学校生活に意欲的に取り組むことができ，全体指導を通じた指導が可能です。



居心地のよい学級づくりを更に推進するためには，児童生徒の学校生活の大半を占める日々の授業の充実が必要不可欠です。そのために，市教委では，授業改善の視点を示し，各校にポイントを意識して取り組んでもらっています。以下のようなことを意識しながら，教科の特性，教師の個性，そこに集う児童生徒の実態に即した授業を展開していきます。

居心地のよい学級づくり学校訪問から～授業改善の視点～

＜大切にしたいこと＞

・児童・生徒の学びを見取ること・・・よいつぶやきを見逃さない、机間指導で取り上げるべき記述を見逃さない

・ちょっと長めの文字言語・・・振り返りを使いながら、ノートやロイロノートで記述する経験を積ませること（できれば目を通し、次時の授業の導入に生かす）

（1）親和型→活性度の高い授業→対話（ペア、グループ）
授業例）
席を立つ活動・・前で発表、黒板で説明、ペア・グループでボードにまとめる。
友達のところへ聞きに（教えに、教えられに、伝えに）いく。

（2）親和型以外→安定度を重視→可能であれば対話型へ
授業例を念頭に置きながら、人間関係や児童・生徒の発する言葉に注意する。

- 教えるべきことを教えた後の展開・活動にひと工夫を
- 手を挙げての発言にこだわらず、どんどん指名して意見を取り上げる。（そのための見取りを）
- 隣の人の考えを発表させる。（ペアトークでの聞くことの必要感）

学校教育課・教育センター事業のお知らせ　～2・3月～

日　　時	内 容 ・ 会 場	備　　考
2月　6日	令和８年度市教育センター事業説明会	Zoom　オンライン

【表紙写真の説明：左】
拡大中学校区小中交流会（中条中学校）

　拡大中学校区の小中交流会は，インフルエンザ流行の影響で３週間先延ばしして 12 月 17 日（水）に十日町中学校と中条中学校の２会場で行われました。今回は中条中学校に寄せていただきました。中条小学校と東小学校の６年生（一部）の児童が中条中学校の生徒と交流しました。主なスケジュールは，学習参観，いじめ見逃しゼロスクール集会，部活動見学です。

　授業参観では，中条中学校の生徒が生き生きと学ぶ様子を参観しました。６年生の児童は，その姿を見て進学への楽しみを増す刺激を受けたように思いました。

　いじめ見逃しゼロスクール集会では，中条中学校の生徒会が主体的に運営していました。いじりについての劇を見て小中学生の小グループごとに話合いをしました。劇中のいじられる子，いじる子，周りで見ていた子の立場を把握して，いじりで傷つく人を出さないためにどうすればよかったかをそれぞれの立場に立って話し合う内容です。グループごとに自分ならどうするか発表する場面では，マイクを持って回る生徒会役員が，発表した子に対して「では，あなたなら何と言って励ましますか？」と追加質問するなど自分事として考えられるようにする姿に感銘を受けました。

　感想を求められた中条小学校の子は，「いじめられているジュンの気持ちがよく分かりました。周りで見ていただけの女子もよくないと思います。」と述べました。

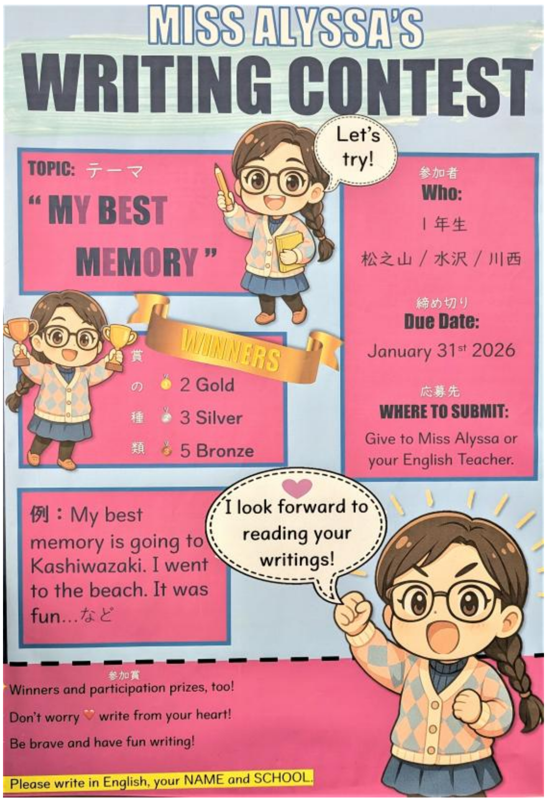
　最後に友野校長先生からいじめ防止対策推進法の趣旨の説明や子どもたちに伝えたいことについて話がありました。子どもたちへは，いじめをされた立場になって自分事として考えてほしいことや自分の中にためておかずにＳＯＳの出し方を身に付けてほしいことなどを伝えておられました。

　その後，部活動見学を終えた６年生は，アンケート用紙に感じたことや進学について思うことなどを記入しました。帰路についた６年生の表情がとても明るかったのが印象に残りました。

【表紙写真の説明：右】

水沢中学校区授業公開（水沢中学校）

水沢中学校区の合同授業研修会が，11 月 27 日（金）に予定されていましたが，インフルエンザ感染拡大の影響を受けて，12 月 23 日（火）に行われました。終業式前日のため参観者は限られましたが，活気のある授業と熱心な授業協議会を拝見することができました。



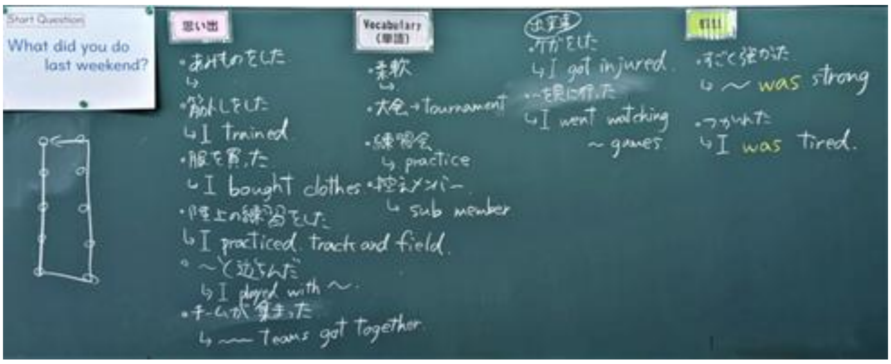
ＡＬＴから My Best Memory Contest を開催するという通知を受けるという設定で1 年間の思い出や感想を書くという内容です。1 年生の生徒は，動詞の過去形を用いて，英語の構文に従って書くことにやる気を見せていました。

What did you do last weekend?を Start Question とする対話を３回繰り返します。

授業者の石沢先生は，チェックリストを示し会話の振り返りを促します。

対話を３回繰り返す中で，うまく表現できなかったことを伝え合うとともに先生はそれを「思い出」「単語」「出来事」「感想」に分けて板書し，解決する方法を全員に考えさせます。子どもたちは「何と言ったらいいんだ？」と解決できなかったことを出し合い，解決したら試してみます。

授業テンポが速かったように感じましたが，子どもたちはそれに慣れており，親和的な雰囲気の中で積極的に活動していました。



目的をもって話す・書く活動は子どもの主体性を生み出し，対話の中に問いや解決の喜びが感じられました。